

かのひ通信

第 2101 号
発行所
三愛学舎
2021 年 9 月 13 日

新校舎、ついに着工 新校舎建築工事が始まる。



9 月 7 日、現場を回っていると、ロケットが地面にささってました。これはいったい何事!!



起工式で生徒代表として鍬入れをする柴内律知さん (本科 3 年生)

建設地にロケット? いいえ地盤強化の新工法です。



新校舎の建設予定地の地盤は主に粘土層です。そのため、ここに校舎を建てるためには地盤強化工事が必要となります。上の写真のように、地面に 3メートルほど穴を掘って、そこに採石を流し込んでいきます。これを全部で 300 か所行います。この工法は砕石パイル工法といって、地盤強化の最新工法で、従来の工法と比較して環境にも優しい工法となっております。

7 月 27 日、小雨の降る中、三愛学舎新校舎建築予定地で、学校法人カナン学園理事角谷晋次牧師の司式のより新校舎建築起工式が執り行われました。
コロナ禍ということもあり、学校関係者、施工関係者のみの出席となりました。生徒代表で専攻科 2 年、佐藤遥生さん、本科 3 年、柴内律知さんの 2 名が参加し、鍬入れを行いました。
この儀式が終わったことで、いよいよ新校舎建築が始まるという期待が高まってきました。



樹木の伐採が終わった建設地

“かのひ”とは? タイトルに込めた想い

不思議なタイトルと感じた方も多いのではないでしょうか? この通信のタイトル、「かのひ通信」の由来ですが、元奥中山教会牧師三好鐵雄氏が三愛学舎 40 周年を記念する礼拝の説教で引用された聖句「この日、言葉をかの日々に伝え」から取ったものです。
「今いる生徒教職員、多くの関係する方々の想いを、この先何十年とこの地に残る新校舎と共に、次の世代に繋いでいきたい。」そんな願いをこのタイトルに込めました。

編集後記

ついに建設工事が始まりました。2013 年からこの事業の計画に関わってきた者としては「やっとで:」というのが正直な実感です。
今回より、日頃より三愛学舎に思いを寄せながらも、来校いただくことが難しいという方々にも、工事の様子がわかるようにと、通信を発行することにいたしました。
新しい校舎が徐々に出来上がっていく様子を楽しみにしていただけだとは思いますが (編集者・事務長 箱崎浩二)